

議事録			会議名		第5回朋有小学校・西巢鴨中学校校舎一体型小中連携校および総合体育場の整備等を考える会（全体会）
議 題	1	考える会の進め方について			
	2	提言書（素案）について			
	3	意見交換			
日 時	令和7年12月16日（火） 18：30～20：00				
場 所	西巢鴨中学校 体育館				
出席者数	吉波副会長（特定非営利活動法人豊島区スポーツ協会会長）他 他委員 23 名 事務局 9 名 支援事業者 9 名				
会 議 内 容（要 旨）					
＜会の概要＞					
1. 考える会の進め方について					
・今回は、第5回全体会であり、提言書素案の説明・複合施設のコンセプト策定に向けた意見交換を行っていただく。					
・次回第6回全体会は、1月20日（火）を予定しており、コンセプト案を含む提言書最終案を提示する。加えて地域説明会の資料の説明も行う。					
・地域説明会は2月上旬を予定している。詳細日程や場所は、現在調整中。					
・第7回全体会は2月下旬を予定している。提言書提出前、最後の考える会である。地域説明会での意見をどのように提言書へ反映させていくか説明をする。					
2. 提言書（素案）について					
・事務局より提言書素案を説明。以下は、主な説明内容。					
○提言書とは					
・考える会委員の新しい施設に対する想い、大切にしたいことをまとめたもの。					
・配置案や具体的な数値を決定していくものではない。					
○基本方針・整備方針の変更点					
・これまで子どもたちの活動する場所に関する意見を多数いただいたため、基本方針に「小中学校ともに充実した活動の場所を確保し、子どもたちがのびのびと成長できる学校」という文言を追記。					
・施設の高層化の可能性が高いことから、児童生徒の動線に関する意見をいただいた。整備方針に児童生徒の動線に配慮する記載を追記。					
・前回の意見交換で、児童・生徒と教職員のコミュニケーションの促進について、ご意見をいただいた。この点は、整備方針の職員室の中に記載した。					
・体育館について、小中同じ敷地で整備することに関し、学校生活や学校行事が小中ともに適切に運営されること、災害時の避難所機能の向上に関してご意見をいただいていた。したがって、それらを考慮した十分な広さを確保するとしている。					

- ・プールについて、学校・スポーツ施設ともに施設の相互利用のご意見をいただいていた。一方で、学校からは学校として整備し、オフシーズンに床を上げ人工芝を引いて子どもたちの活動場所として整備する案もいただいた。プールの運用に関しては、区の判断も必要であることから、提言書上では「通年利用を想定した整備を行う」との記載にしている。
- ・配置案はC案を追加した。こちらは、広い校庭を確保できる一方で、校庭までの動線に課題が生じる。
- ・学校施設検討部会で小中連携教育に関するご意見を多数いただいたが、その内容は提言書内に「小中連携教育について」という項目をつくり、記載している。
- ・施設の相互利用について、学校・スポーツの両部会から意見をいただいているが、その内容は「資料」の項目に記載している。

3. 意見交換

○前回の意見交換の内容の共有

(学校施設検討部会)

- ・施設への期待：校庭等の運動場所はできるだけ広く確保したい。災害時は地域防災の拠点として地域と連携。
- ・共用への期待と課題：運動会時に野球場等を利用する広いスペースでの活動の可能性に期待。一方でセキュリティをしっかりと確保した上で、スポーツ施設側の会議室等をイベント利用時に使えるような相互利用ができないか。
- ・プールについては、地域開放して使いたいという意見と、オフシーズンは屋内運動スペースとして利用したいという意見があった。

(スポーツ施設検討部会)

- ・基本方針：競技ごとの機能や設備の検討に加え、学校と一体となることによる相互利用、共用、連携が図れる複合施設としてのメリットを感じている。
- ・期待：総合の名称にふさわしい様々な種目・競技が行える多様性のあるスポーツ施設にしたい。
- ・スポーツ推進計画：豊島区で策定された計画（スポーツでみんながつながり、笑顔溢れるまちとしま）を基本理念とし、生涯スポーツの実現を目指す。
- ・インクルーシブ：子どもから高齢者、障害者など誰もが楽しめるインクルーシブなスポーツ施設を中心に、学校や地域との交流ができる新しい複合施設となることを期待。

○意見交換「複合施設のコンセプト策定へ～施設の相互利用・想いの共有」

- ・2グループに分かれて意見交換

グループ①：学校施設検討部会（学校関係）＋スポーツ施設検討部会

グループ②：学校施設検討部会（町会など）＋スポーツ施設検討部会

グループ①

（生涯にわたるみんなの学び場）

- ・この学校に通う子どもたちを地域で育てる。地域で子どもたちの9年間を育てていく。
- ・この施設でスポーツをし、仲間を育てる。
- ・子どもも地域も大人も、みんなが育つ。
→学校としての学び（小：知・徳・体、中：心・技・体）
→心も体もいきいきとし、学びが楽しくなるような施設（文武両道）
- ・100年間使う施設。この場所で生きていく。
→長い目で見た視点、未来に向けた希望

（スポーツ施設との一体化）

- ・コンセプトにはスポーツ施設と一体化することを表す言葉を入れたい（融合など）。
- ・スポーツ施設と学校施設でお互いに協力し合うというのを表現したい。
→学校が使っていない時は、スポーツ施設が使える/スポーツ施設が使っていない時は学校が使えるような運用に可能性を感じる

（多様性）

- ・東池袋を表現する言葉として多様性（ダイバーシティ）やインクルーシブのような言葉は適切。
- ・複合化を考えるうえでも多様性は重要な要素。
→多世代・多国籍・社会人・外国人と触れ合うことが大事
→世代間交流が大事
- ・インクルーシブという観点では、朋有小学校、西巣鴨中学校には特別支援学級の固定級がある。

（安全・安心）

- ・子どもたちの安全・安心を担保できる施設。
- ・スポーツ施設としても安全・安心は大事。
- ・コミュニティスクールの考え方を重視したい
- ・複合施設だからこそセキュリティの確保が必要。

（その他）

- ・豊島区の中心地に新しい体育場ができるので、ランドマークのような施設にしたい。
- ・朋有小学校の校歌から「楽しいみんなの広場」というのを入れたい。
- ・3校の校歌から共通のキーワードを探すのもよい。
- ・複合施設だからこそ先生方の負担を軽減できる工夫ができるのではないかな。
- ・最新の設備など新しい施設への期待を入れたい。

グループ②

(学校＋スポーツ＋地域が 365 日使い倒せる施設に)

- ・授業があるときは学校優先だが、授業以外の時間に使えるという可能性もある。
 - 主たる使用者側の利用が制限されない、使いやすいつくりが重要となる
- ・学校施設は 365 日中の 200 日が利用日 (+部活)。セキュリティや教育委員会と調整することで、学校施設を体育施設としても利用していける可能性はある。
 - プールは特に稼働率の低い施設となっている。床を昇降式とし、区民も使えるようにすると、かなり需要がある
 - 使われていない時間にスポーツ団体や区民が使用できればと考える
 - スポーツ団体が競技種目として専門的に使う以外にも、地域の皆さんが使えるような場所として開放することで、交流もさらに生まれるの。(学校＋スポーツ＋地域)
- ・良い施設ができるからこそ、365 日使い倒せる施設としたい。
 - 安全でありながら最大限共用できるような管理システムの導入が重要となってくる
- ・学校・スポーツ共に新しい使い方を考えていきたい。

(全世代・区民全体がつながる施設に)

- ・複合施設の基本方針にある、①学校とスポーツの交流を大切にする新しい地域複合施設、②みんながつながる、誰もが主役の複合施設 この二つは学校・スポーツが大切にしたいところに重なってくる。
- ・交流ということを考えるうえでは、「つながり」という言葉が鍵になると思う。
 - 「全世代のつながり」
 - 学校・スポーツだけでなく、地域の人まで含めて、区民全体がつながることができる施設
- ・学校で考えても、子どもだけでなく、親まで含めた家族という視点では多世代の集まる場所である。豊島区では、さらに国際的な交流という視点も含まれる。
- ・複合化し敷地が広がることで地域防災としての機能の向上も期待できる。
- ・イケ・サンパークとの隣接は、防災という視点だけでなく、交流という意味でも重要となる。

(子どもたちが地域と一体となり、新しい文化・未来を育む・つくる拠点に)

- ・地域を活性化させる多世代の交流という言葉も重要だと考える。
 - 学校の側面から地域の活性化を考えると、子どもたちが地域の発展を支えるということがカギだと思う
 - 子どもたちが地域と一体となって発展させていくという視点を足したらいいのではないか
 - 文化や伝統を育む施設になりうる
- ・今回はそこに総合体育場が一体となる。ここにしかない、オンリーワンな施設となる。
 - 先端体育施設としての期待も大いにある
- ・ここまでの議論を包括すると、多世代交流のメッカのような場所になるのではないか。

→「新しい文化・未来を育む・つくる」ということが重要なのではないか

(施設内容の確認と具体提案)

- ・パラスポーツができるような施設にしたい

→学校との共用によって実現できればスポーツ面でのインクルーシブな教育も可能となる

- ・既にある機能（競技）を想定しているのか

→今ある競技のスペースは現状と同等程度確保する想定（テニスは屋内化する想定である）

→今の総合体育場にはない競技については、学校の体育館や武道場、プールを使っていない時間を活用させてもらうことで、今は総合体育場を使っていない競技団体も使うことができるような施設できる

→学校側もイベントや総合体育場の空き時間に使わせてもらうことで可能性を広げたい

→学校施設・総合体育場共に、使っていない時間を相互に利用しながら、互いの可能性を広げていきたい

- ・複合・共用においてセキュリティが重要となるが、動線の計画をどのように計画するのか。

→スポーツの入り口は、学校の出入口とは別にすることでセキュリティを確保したい

- ・野球場の使い方としては、A面B面で別の使い方をすると危険。

- ・運動会をはじめ、地域の行事などでも野球場を使うことで相互の可能性を広げたい。

→安全に、最大限使い倒せるような管理システムを導入したい

次回日程

1月中旬開催予定（別途お知らせいたします。）